株式会社ローソン

平成 22 年 3 月 18 日　締結

LAWSON

・脱炭素社会の実現を目指した地球環境を大切にするまちづくり
・地域社会に思いやりをもったまちづくり
・身近な暮らしの安全・安心に取り組むまちづくり
・次世代の子どもたちの育成を応援するまちづくり

「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」

これがローソングループのグループ理念です。私たちは創業以来、社会環境の変化に対応し、お客様のニーズにお応えしながら、地域に密着した取り組みを進めてまいりました。スローガン「マチの“ほっと”ステーション」実現に向け、グループに関わる全員がそれぞれの業務で「3つの約束＝圧倒的な美味しさ、人への優しさ、地球（マチ）への優しさ」実現に向けて一つひとつの課題に真摯に取り組んでいます。

※写真は 2022 年 7 月に　オープンした「ローソン札幌新発寒 1 条店」 北海道産木材を使用した 1 号店です。サスティナブルな資源である木材を使用した店舗です。

マチのお役に立つための取り組みを進めています。

■地元食材を使用した商品開発による地域の活性化

地元の食材を使った商品により、地産地消と地産外消を進めて地域との結びつきを深めています。北海道産米を使用したおにぎりなどを販売しているほか、2022年8月にはオリジナル商品のからあげクンで北海道産の若鶏とじゃがいもきたあかりを使用し、バター・塩も北海道産に拘った「からあげクン北海道じゃがバター味」を限定発売しました。

■支援を必要とする方への食品寄贈

新型コロナウイルス感染症が拡大している中、支援を必要とする人々が増えています。ローソンは食品ロス削減やひとり親家庭への支援として商品寄贈の取り組みを実施しています。その一つとして札幌市内の事業所で社員から余剰食品の寄贈を受けるフードドライブを実施し、フードバンク団体にお届けすることができました。

（NPO法人フードバンク イコロさっぽろへの寄贈の様子）

■ローソン緑の募金

「ローソングループ“マチの幸せ”募金」の一部を、「ローソン緑の募金」として公益社団法人国土緑化推進機構を通じて学校緑化事業とボランティア団体が実施する森林整備活動を支援しています。
（写真は新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年札幌市内での活動の様子）

■セーフティステーション活動への参加

ローソンは、一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（JFA）のセーフティステーション活動に積極的に参加し、“安全・安心なまちづくり” への協力や、青少年が育つ環境の健全化への取り組みなどを推進しています。その活動の一環として、特殊詐欺防止への取り組みも進めています。
（ローソン札幌厚別北1条店。特殊詐欺防止に対し感謝状が贈呈されました。本年度10月末時点で、札幌市内で6件の感謝状が贈呈されています）

■シニア雇用促進のため「お仕事説明会」を開催

札幌市就業サポートセンターと連携し「シニアお仕事説明会」を開催、コンビニエンスストアでの仕事を分かりやすく実演を交えて説明し、シニアの皆様の就業をサポートしています。

■アスリートが子どもたちに夢をもつ大切さを伝える「夢の教室」の開催を支援

ローソングループは、「子どもたちの未来のために」をコンセプトに、マチ（地域社会）の一員としてさまざまな活動に取り組んでいます。その一環として、公益財団法人日本サッカー協会が運営する「JFAこころのプロジェクト『夢の教室』」を提供しました。2022年度の「ローソン『夢の教室』」の授業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの授業となりました。
元アスリートなどの「夢先生」からは、子どものころから振り返って、自ら工夫しながら練習・トレーニングに励んだことや、挫折した時の悔しさなどのお話があり、夢を持ち続けることの大切さや支えてくれた人々への感謝の気持ちを忘れてはいけないなどのメッセージがありました。
今年度、札幌市では「市立屯田北小学校」「市立中沼小学校」「市立厚別東小学校」で「夢の教室」を実施しました。
（写真は市立屯田北小学校で行われた「夢の教室」の様子。「夢先生」は元劇団四季の佐藤知子さん）
このほか、ローソンでは社員による学校での環境授業や社会人授業などの出前授業を積極的に行っています。

一般社団法人札幌青年会議所

平成23年2月15日　締結

・まちづくり活動団体の力を生かすまちづくり
・国際交流を通じた札幌の魅力を発信するまちづくり
・未来を担う子どもたちが豊かな心でふれあいを大切にするまちづくり
・真摯な情熱を結集し、豊かな風土資産を生かした活力あるまちづくり

◆第９回わんぱく相撲札幌場所

何事にも挑戦する気概のある人間性や礼儀・礼節・感謝の気持ちを醸成する青少年育成事業を開催しました。小学校４年生から６年生までの優勝者は、後日開催されたわんぱく相撲全国大会に出場し、全国のわんぱく力士としのぎを削るとともに、交流を図りました。

◆ＳＡＰＰＯＲＯ　交通未来　ＦＥＳＴＡ

札幌市は冬季五輪が開催されたことをきっかけに、交通ネットワークをはじめとするインフラが整備され、国内屈指の交通都市として発展してきました。しかし、現代では人口集中に伴う自然環境への負荷や、高齢者の移動制約、居住環境等の交通課題が顕現し、都市基盤の整備と新たな価値の創造が求められており、経済発展と社会的課題の解決を両立する交通未来都市札幌の実現に向けた発信を行いました。

■さっぽろ未来マッピング

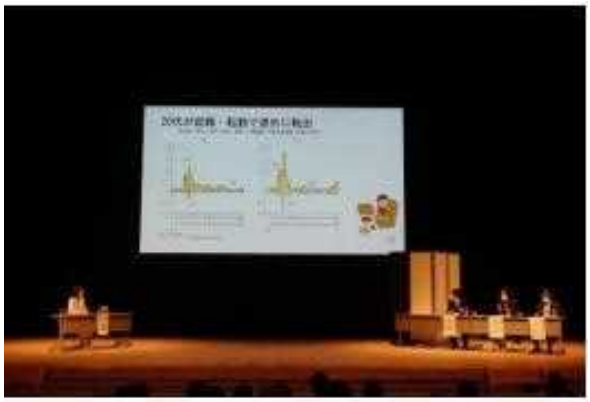
実施概要
会場内に札幌市のイラストを印刷した木版を組み合わせた巨大地図を設置し、その各所にＡＲポイントを設置しました。

◆さっぽろエコロジーフォーラム２０２２（サツエコ２０２２）

札幌市が将来像として掲げる「環境首都・ＳＡＰＰＯＲＯ」は「次世代の子どもたち」が笑顔で暮らせることをテーマとしています。このテーマを達成するためには、次世代すなわち高校生及び大学生にも広く現状の課題の認識していただき、課題解決に向けて共に活動することが重要であると考えました。そこで、本事業の対象を学生とし、セミナーとフォーラムを開催しました。本事業の対象は高校生及び大学生３０名を対象としていますが、対象者に環境問題に対する意識を醸成・深化していただくことで市民一人ひとりに波及していくことを事業目的としました。

◆全市民活性化例会

近年、価値観の多様化が普及している中で、人々のライフスタイルも多様なものになりました。ワーク・ライフ・バランスは多様な考え方がありますが、労働を１００％とする生き方を含めて、全市民が自らの能力や資力に応じて、自らの希望に応じて働くという、多種多様な働き方を容認することを訴え、ワーク・ライフ・バランスが、ダイバーシティの観点や少子高齢化の中での人材確保という観点から有用であることを発信しました。



第一部討論会

第二部　西村ひろゆき氏

株式会社セコマ
株式会社セイコーフレッシュフーズ・株式会社北燦食品

平成 23 年 7 月 26 日 締結　平成 28 年 3 月 8 日 改定

・持続可能な社会を実現するために環境に配慮したまちづくり
・地域との連携を深めた活気あふれるまちづくり
・障がい者の就労を支援するまちづくり
・次世代の子どもたちの成長を応援するまちづくり
・地域の笑顔を守る安心・安全なまちづくり

◆札幌市との市制 100 周年事業◆

2022 年 8 月 1 日に市制が施行されてから 100 周年という大きな節目を迎え、セコマグループ創業の地である札幌市を地域全体で盛り上げるため、札幌市制 100 周年事業にご協力しました。

✧ **オリジナルボックスティッシュの制作・発売**

商品名：Secoma ティッシュ（200 組×5 個パック）
期間：2022 年 7 月 25 日（月）～9 月頃
札幌市内の風景写真をデザインしたオリジナルボックスティッシュを発売しました。

✧ **札幌市内店舗への記念のぼりの展開**

期間：2022 年 8 月 1 日（月）～8 月 28 日（日）
対象店舗：札幌市内 338 店舗

◆札幌市交通局との 50 周年事業◆

札幌市交通局と株式会社セコマは、2021 年にともに開業 50 周年を迎え、連携事業を実施しました。

✧ **オリジナルボックスティッシュの製作・販売**

地下鉄デザインのオリジナルボックスティッシュを発売しました。

✧ **株式会社セコマから札幌市交通局への寄附**

株式会社セコマから札幌市交通局に 100 万円を寄附しました。
この寄附は、地下鉄駅構内で今後改修が行われるトイレに設置するベビーベッドや幼児用トイレなど、子育て支援に資する事業に活用されました。

▲感謝状贈呈式の様子

✧ **連携歴史パネル展の開催**

地下鉄大通駅構内にて、両者の歴史を紹介するパネル展を開催しました。また、隣接する通路で記念フォトスポットと歴史年表を展示しました。

✧ **連携ポスターの作成**

本事業の広報用に連携ポスターを作成し、地下鉄車内及び駅構内に掲出しました。
セイコーマート店舗では、レジのカスタマーディスプレイとデジタルサイネージに広報用画像を表示しました。

▲パネル展の様子

◆自治体の特産品を PR するキャンペーンの実施◆

北海道各地の産品を原料に使用した商品等を購入して応募する売場企画の景品として、各自治体の特産品やふるさと納税返礼品を採用。応募用紙や、特設サイトの告知媒体で PR しました。

【企画概要】

・実施期間：2022 年 8 月 1 日（月）～8 月 28 日（日）

・さっぽろ連携中枢都市圏で参画頂いた自治体：札幌市・岩見沢市・江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・新篠津村・南幌町・長沼町

◆環境への取組み◆

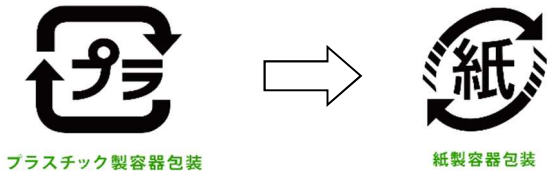
✧ <u>Secoma オリジナルの惣菜容器に紙製容器を導入</u>

2022 年 7 月より一部の麺類・惣菜容器の主原料をプラスチックから紙に変更。

包材に使用する資材の一部につき紙を主たる素材(※1)に変更することにより、対象商品の容器における年間プラスチック使用量について 40 トンの削減（51%減）(※2)を見込んでいます。

※1 紙 51%プラ 49%原料の MAPKA（マプカ）シートを使用。紙製の容器包装に該当。

※2 販売数量が前年と同数の場合の比較



✧ <u>食品ロスの削減</u>

食品製造過程で発生する食材の端材やグループ農場で生産した野菜のうち規格外品を惣菜やサンドイッチ・パスタの具材等として活用、また、規格外のメロンやすいかを活用した商品開発等、サプライチェーンを活かして食品ロス削減に努めています。

セコマグループサプライチェーンにおける規格外品や端材の活用は 2021 年の実績で約 1,438 トンとなっています。

✧ <u>店舗にて紙パック・たまごパック・古紙等を回収し、リサイクル</u>

【2021 年実績】

紙パック　約 279 トン

たまごパック　約 39 トン

古紙・ダンボール　約 7,020 トン

生活協同組合コープさっぽろ

平成23年11月8日　締結

・豊かなくらしと持続可能な環境保全型のまちづくり
・無限の可能性が広がる子どもたちの豊かな心を育てるまちづくり
・くらしの安心を願い助け合いの和を広げていくまちづくり
・地域で取り組むボランティアを大切にするまちづくり

1. トドックステーション （コミュニティスペース）

2016年度から宅配センター・店舗に「トドックステーション」の設置を開始しています。コミュニティの場を用意することで、子育て層を応援することが目的です。2016年5月に札幌中央センターに設置して以降、2022年10月時点で道内25か所にオープンし、多くの親子連れにご利用いただいております。単なるスペース提供だけではなく、フリーマーケットや絵本の読み聞かせ、料理教室の開催など地域のコミュニティスペースとして、みんながつながる「地域ひろば」を目指しています。

2. トドックフードバンク

2016年5月5日（こどもの日）から北海道内の児童養護施設を提供先とした「トドックフードバンク」を開始しました。フードバンク事業は食品ロス削減の一助となり、また社会貢献にもつながるため、食品に携わる事業者に求められる活動です。日本生協連や取引先企業などからの寄付のほか、宅配の返品商品など、年間約7,000万円分の食料品を全道23カ所の児童養護施設、5団体へ毎週提供しています。

3. 大学生育英奨学金

2017年4月からコープさっぽろの店舗や工場で働く、大学生・院生・短大生、高等専門学校4・5年生を対象とした、年額25万円、最大4年間で100万円を給付する返済不要の奨学金制度を開始しました（定員500名）。2021年度までに累計1,339名（支給総額3億3,475万円）が受給しています。実際に奨学金を利用し、アルバイトを経験した学生からは「さまざまな年代の先輩方や組合員さんと一緒に働くことで、コミュニケーション力がアップし、社会に出たときに役立つ経験になった」との声をいただいています。

4. えほんがトドック

2010年度から、読み聞かせを通じた親子のふれあいを目的として、1～2歳のお子さま(またはお孫さん)がいる子育て世帯を対象に4か月ごとに1冊、合計4冊の絵本をお届けしています。2022年10月時点で延べ登録世帯は117,614世帯となり、配本冊数は518,176冊となりました。昨年度から、絵本のよさをもっと知っていただき、よみきかせができる人を増やすため「えほんがトドックよみきかせ隊認定講座」を開講しております。また、道内の保育園・幼稚園、子育てセンターを訪問し、絵本の楽しさを知ってもらう「えほんわくわくキャラバン」も実施しています。

5. 雇用環境の改善

コープさっぽろグループ全体での障がい者雇用人数は2022年10月現在で660名となっており、道内の各店舗、宅配センター、食品製造工場などで働いています。雇用率は法定義務の2.2%を大幅に上回る6.78%となっています。今後も、北海道各地域の障がい者が、コープさっぽろでその能力を発揮して共に働くことのできる職場づくりを推進します。

※　令和4年度　（独）高齢・生涯・求職者支援機構理事長努力賞「障害者雇用優良事業所」を受賞

6. 移動販売事業と夕食宅配

2010年度から買い物が困難な地域のくらしを支える移動販売車事業を開始しました。コープさっぽろの店舗から約1,000品目の商品を積み、毎週決まった曜日、コース、時間に運行しています。現在は全道135市町村を95台の車両が走り、年間累計約100万人の方に利用いただいています。札幌市では約20か所の高齢者施設へも訪問しています。一部地域では、自治体やJA、社会福祉協議会と連携して地域における買い物困難者対策に取り組んでいます。今年10月25日から苫小牧信用金庫と連携し、ATMを搭載した移動販売車を運行しています。

また、夕食宅配は現在196台の車両で全道約7,800名に年間188万食をお届けしています。

7. 高齢者見守り活動

宅配システム「トドック」や配食サービスなどで職員が組合員のお宅にお伺いする機会を活用し、高齢者の安否確認など見守り活動を行っています。2013年度からは「遠くに住んでいる家族に毎週コープの商品を届けてあげたい」という組合員の声をもとに「見守りトドック」を開始しました。注文者とは異なる方に商品をお届けすることができ、同時にお届け先の状況を注文者に毎週連絡する「電話連絡サービス」を加え、見守り活動を強化させています。

また、緊急の際の連絡体制をスムーズに行えるように各市町村と「高齢者見守り協定」を174市町村と締結し、年間約120件の見守り実績があります。

8. ファーストチャイルドボックス＆コープチャイルドボックス

2018年4月から、第1子誕生予定の方へ「ファーストチャイルドボックス」を贈る取組を始めました。ベビーケアアイテムやベビー服など、子育てに欠かせないものを初めて出産される方に贈る子育て支援であり、フィンランドで実施されている「母親手当」の取組をモデルに北海道で実現したものです。現在までに3万人を超える方にお申込みをいただいております。さらに、組合員さんのリクエストにお応えして第2 子以降のご出産の方への贈り物「コープチャイルドボックス」の取り組みを2019 年10 月より開始しています。こちらは、出産してすぐに必要な日用品をお届けしています。コープさっぽろはこの取組をはじめ、マタニティコンサートや離乳食教室など、あらゆる子育て支援を展開しています。

ファーストチャイルドボックス

コープチャイルドボックス

生活協同組合コープさっぽろ

9. 北海道SDGs推進プラットフォーム

2019 年7 月に、北海道で中核的に「持続可能な開発目標（SDGs）」を推進することを目的として「北海道 SDGs 推進プラットフォーム」を設立しました。このプラットフォームに17 団体からなるSDGs 推進委員会を設置し、プラットフォーム会員に向けたSDGs 研究会を定期開催しております。札幌市からもSDGs推進委員に就任していただいております。2021年度もプラスチック問題について2 回のSDGs 研究会を開催、SDGs 推進の底上げに寄与することができました。

また、昨年度から「Hokkaido海のクリーンアップ大作戦！」と題して道内の海岸清掃を実施しており、今年度は8,372名の方に参加いただき、全道51カ所で海岸清掃を行いました。次年度以降も規模を拡大して実施することとしています。

10. エコリサイクル事業

2008年にエコセンターが稼働し、店舗や事業所、組合員さんの家庭から出る資源物を回収し、中間加工などを行ってリサイクルにつなげています。エコセンターの収益はファーストチャイルドボックスやコープチャイルドボックス、えほんがトドックなど子育て支援の活動資金に活用しています。2021年度は3万8,208トンの資源を回収しました。（2万4383トンのCO2削減に相当）

11. コープ未来（あした）の森づくり基金

2008年にCO2の削減を推進するため、レジ袋の有料化を開始しました。レジ袋の利用を辞退すると1枚につき0.5円が基金に積み立てられ、植樹等に活用されています。道内16カ所にコープの森があり、これまでの植樹本数は11万本を超えています。

また、2019年にはコープさっぽろの環境の取組を知ってもらうため、「トドックエコステーション　あすもり資料室」をエコセンターの敷地内に設置しました。地域や各種団体と連携し、環境学習・交流の場として活用いただいてます。

City of Sapporo
100th
Anniversary
札幌が、もっとはじまる。